

Title	『日本経済叢書 第一、二、三』
Sub Title	
Author	阿部, 秀助
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1914
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.8, No.8 (1914. 10) ,p.1093(183)- 1094(184)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評と紹介
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19141000-0183">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19141000-0183</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

### 批評と紹介

ミュンスターベルヒ著

#### 『心理學と經濟生活』

(H. Münsterberg, Psychologie und Wirtschaftsleben)

現時の經濟學が幾多の方面に於て心理學の補助を仰ぎつゝあることは明かなる事實にして、例者、「ワグナー」教授の如き吾人の科學的認識は吾人の精神状態を研究するに始まるとなし、加ふるに彼れは國民經濟學を以て一個の應用心理學となせり、又、「シュモラー」の如きも心理學的歴史的に研究するを以て國民經濟學の主なる任務となせり、更に奧太利派の研究的態度(「フオン・ウ・ザー」「ベーム・バウエルク」の如きを見るに彼等は價值の法則を快、不快の感情を以

て立論せんとせり、斯くの如きは以て近時の經濟學研究が必ずしも心理學と風馬牛にあらざることを證するものなりとす。只だ心理學的の研究によりて理論的經濟學の構成を求むるに至りては吾人は大なる異論を挾まざるを得ず、況んや實驗心理學に於てをや、此點に於て異なりたる色彩を有すること「ミュンスターベルヒ」の本著となす、彼れの求むる處は吾人の精神界を支配せる一般的法則を研究するにわらずして、寧ろこれと反對に特殊的心理現象例者年齢、男女、國民性、人種の異同によれる特性を研究するにあり、換言すれば實驗心理學の見地の下に此個別的異同性を取扱ふものなりとす、而して斯くの如き研究方法は從來、既に教育學、刑法の諸方面に於て應用せられし處なりとす、今、著者が經濟生活に向てなさんとする心理學的研究は或點に於て最近獨逸の社會政策學會が試みたる處と相似たる處なり、只だ社會政策會方面

が理論的なるに對して「ミュンスターベルヒ」は徹頭徹尾實際的目的を有するものにして換言すれば經濟上の實務に従事する人に對して之れが顧問たらんとするにあり、而して本著の研究は主として分ちて三つとなすを得可し、即ち第一は經濟的努力に向て特有なる人格を求むるに如何にす可きやの問題にして、著者は主として實驗心理學の補助によりて各次的人格を確定し、更に之れを諸種の經濟的事業に適合せしめんとするにあり。第二の問題は勞働効率増加の問題にして、此點に於て著者の意見は「テーラー」の研究と相觸接せる處あり、第三の問題は最も心理學的の應用せられし部分にして、如何にせば吾人の經濟的慾望は、より迅速により容易に満足せられ得可きやにあり、尙ほ著者は最後に經濟心理學將來の發展、状態に就きて敘述せり、これを要するに著者の所謂經濟心理學なるものは從來の經濟學者又は一部の心理

學者が試みたる如き理論的のものにあらずして寧ろ實際的、個人經濟的性質を有するものなりとす、故に一般商工業に従事するものにとりて參考の材料たることは勿論なり、想ふに此方面の研究にして將來益々發達するに至らば、勞働時間問題の如きも自から異なりたる色彩を有して新たなる方面より解決の氣運に向ふ可し、吾人の經濟心理學に望む處は徹頭徹尾其實際的方面の活動にあり (阿部生)

#### 日本經濟叢書第一、二、三(日本經濟叢書)

日本經濟叢書は我邦の出版界に於て最も價値ある研究物たり、而して第一卷收容書目中吾人をして最も感せしめしものは幕吏田中丘隅右衛門の民間省要にして、本書は享保頃に於ける民政上の諸問題殊に賦稅治水、驛傳等の諸項に就き最も精細に論述し、殊に當時幕吏の下役等が上意を解せずして猥りに邪惡の行動あるを憚な

く非議し、或は入札請負の弊役人と御用商人との結托等を指摘せり、其師成島道汎の如きは此書を以て當時に於ける最も有用の大著作となして幕府に献せしと云ふ、第二卷收容書目中特に讀む可きものは室鳩巢の兼山秘策にして、之れ加賀の青地齊賢及其弟禮幹が鳩巢より寄せし書簡を年月順に輯録せしものにして當時の物價問題或は貨幣問題等に就きて見る可きもの多し、第三卷に於ては吾人は物茂卿の政談に服す、本書は多く當時の社會問題に觸れ或は浮浪遊民の徒或は江戸人口の膨脹、或は諸士の村落生活等に就きて論じ、此時代を研究する者にとりて好個の参考材料たり、我等は本叢書が其卷數を増すにつれて、多々益々我邦の學者を益することの甚だ大なるを信じ茲にて深く瀧本誠一氏、福田内田兩博士及河上君に謝意を表するものなり

(阿部生)

三田學會雜誌 第八卷第九號

論 說

十七、十八兩世紀に於ける和蘭

經濟學說 (其二)

福 田 德 三

四

英國に於ける經濟學說の發達が英國の世界商業場裏に於ける地位の向上に伴ふと同じく和蘭に於ける經濟學說の發達は和蘭が西班牙の羈絆を脱し獨立の國民として世界商權を掌握せんとしたる時に起れり。故に其重要の問題として取扱